

失調症 統合失調

# 新たな原因遺伝子

## 岐阜薬科大発見 細胞成長に関与

岐阜薬科大の原英彰教授は精神疾患の一つである統合失調症の原因となる新たな遺伝子をマウスの実験で見つけたと発表した。同大学など5大学と1研究機関による共同研究の成果で、発症の仕組みの解明や新薬の開発につながるかと期待している。14日付の米オンライン科学誌「プロスワン」に掲載された。

この遺伝子は細胞の成長や分化に関与し、細胞増殖因子「HBB-EGF」と呼ばれる。前脳でHB

BB-EGFが働かないようにしたマウスを作った結果、情報処理障害、コミユニケーション能力や記憶力の低下、運動量増加など、統合失調症の特徴的な症状がみられた。

原因遺伝子はいくつか発見されているが、これだけ多数の症状にかかわる遺伝子はほとんどないという。研究グループは今後、医療機関と連携し臨床試験に取り組む。

平成21年10月15日(木)

日本経済新聞 夕刊